

# ちば・谷津田フォーラム

## 目次

### 大和田地区の町づくりと伝統的谷津田の保全

ちば・谷津田フォーラム 代表 中村 俊彦 .....1

#### 『谷津田観察会』に寄せる思い

千葉市緑区 綾 富美子 .....1

#### 『田園の快樂』

市原市 中野 雅蔵 .....2

### 大藪池谷津で「谷津田創り隊」がんばる～谷津田創造プロジェクト～

Project TOKE 高山 斎一郎 .....3

### 里山林と谷津田保全の試み

佐倉里山クラブ 代表 美濃和 信孝 .....4

#### 「岡発戸・都部の谷津を愛する会」の発足と活動

岡発戸・都部の谷津を愛する会 代表 宮下 和喜 .....5

### 大草谷津との出会いとこれから

ちばコープ 金子 美幸 .....7

### 市原市市津近辺の谷津－豊かな生命の揺り籠

市原市 植田 和雄 .....8

### 谷津の保全 - 行政と市民とのかかわり

ちば環境情報センター 田中 正彦 .....8

谷津田調査票をお送りください .....9

事務局より .....10

イベント情報 .....11

# 大和田地区の町づくりと伝統的谷津田の保全

ちば・谷津田フォーラム 代表 中村俊彦

私をはじめ千葉市緑区下大和田町の谷津の自然にふれたのは、つい最近、昨年の秋でした。すでに稲刈りは終わって、自然は冬じたくの真最中といったところでしたが、その自然環境の素晴らしさは、まさに千葉の原風景がひっそりと守られていたといった心地よい驚きを私に与えてくれました。

この下大和田の谷津を訪れるきっかけは、その少し前、この地域で新しいまちづくりを計画されている大和田地区の土地区画整理組合設立準備会の方が博物館にみえられ「谷津田とそのまわりの自然を活かした、「環境と福祉の新しい町づくり」をしたいのだが、そんな前例や資料はないか」との相談でした。準備会の方は、「地域の活性化のためには、土地区画整理による新しい町づくりが必要だが、素晴らしい谷津田自然は是非とも保全していきたい」とのことでした。

これまで私は、宅地開発によって埋められ消失していく千葉の自然をたくさんみてきました。開発計画を知るたびに谷津田と伝統的農村自然の保全を訴えてきましたが、まともに意見を取り上げてもらえるところはありませんでした。今回のように、その自然の素晴らしさを最初から認識し、これを町づくりに取り込みたいと言った話は初めてのことです。大和田地区の町づくり計画では、谷津田部分は調整池として位置づけられ、その周辺も一応の施設計画がなされていました。しかし、準備会の方はその計画図の全てを私に見せて下さり、現状計画の説明とともに谷津田の保全のためには図面の修正も考えてもらえるとの話でした。

谷津田保全の理想は地元の方に伝統的な農法による米作りを続けていただくことです。私がかねがね、谷津田を、伝統的米作りのできる調整池や市民農園、谷津田公園として保全する可能性を考えていましたが、大和田地区の土地区画整理組合設立準備会の方は基本的にこの考えに賛同してくれました。ただ、このようなプランは将来管理や経営などの面で越えていかなければならないいろいろな問題がたくさんあります。

ちば・谷津田フォーラム2月20日の下大和田谷津の観察会では、土地区画整理組合設立準備会の岩瀬友一会長、浅川剛事務局長はじめ地元の多くの方々から、谷津の現地案内とともに大和田地区の将来の町づくり計画について説明していただき、さらに、参加者全員から谷津田保全に関する意見を聞いてもらえました。ちば・谷津田フォーラムと土地区画整理組合設立準備会の方々との間に不思議な信頼関係を感じたのは私だけではないと思います。

大和田地区の素晴らしい農村自然を活かした環境と福祉の町づくりには、私どもも、それぞれの立場や専門性の範囲で大いに協力していきたいと思います。

## 『谷津田観察会』に寄せる思い

千葉市緑区 綾 富美子

今回、谷津田観察会を実施する千葉市緑区大和田地区は私の住む土気町のお隣りとなります。大和田地区の谷津田には本流となる鹿島川に合流する小川が流れていますが、土気町はその鹿島川の最上流部に当たります。大和田地区の谷津田は千葉市内でも貴重な手つかずの原風景が広がっていますが、私が移り住んだ25年前の土気町の谷津田もそうでした。

その頃を思い出しますと水田を流れる鹿島川は子供でもひとつ飛びで渡れる小川で、メダカやフナ、ドジョウが泳ぎ、春にはカタクリを代表とする春植物が咲き、秋には木の実、草の実、虫取り、時には

野ウサギやリスも出没し四季を通して美しく、田んぼで遊ぶ子供たちの歓声が聞こえていました。あの小さな鹿島川の流れが大人、子供に何物にも換えがたい貴重な体験を残してくれました。

現在といえば、鹿島川は湧き水、根垂れ水が大規模な宅地造成工事により埋め立てられ、その結果、雨水調整池が水源となり、水路は深いコンクリート張りで生き物の姿はありません。川の対岸は杉林が切磋されゴルフ場を造成中です。田んぼも圃場整備され、冬季には乾田となりました。

それでも広い谷津田は気持ちの良いもので、犬の散歩や健康増進のためのウォーキングする大人の姿を多く見かけます。でも子供たちの姿をみる事は無く淋しいものです。もう失われた自然は帰って来ません。これまでは社会全体がより便利により快適にと自然環境を無視し破壊し利潤を追い求めてきました。その結果、心の荒廃が現代人を蝕んでいます。私達も反省しなければなりません。少しアクセルを弛めて回りの景色を眺める余裕が必要なのではないのでしょうか。環境に対する人々の意識が高まってきたこの時期に大和田地区の谷津田が残されていたことは私達への自然界からの贈り物ではないかとさえ思われます。

幸い、大和田地区で進められている開発計画は先日の第1回観察会の折、地元の代表の方や開発担当者から伺った所によると、全国に先がけて環境と福祉をコンセプトとし、豊かな生態系が維持されているこの谷津田を可能な限り残し、自然と触れ合う場として位置付けるとのことでした。

両者のお話から「ちば・谷津田フォーラム」に寄せる期待は大きく、フォーラムの意見を真摯に受け止めようとする姿勢が感じ取られました。世の流れは対立の時代から歩み寄り、対話する時代に向かっています。それだけに私達も責任を持ってより良い谷津田の保全策を考えていかなければなりません。将来、移り住むであろう人達のためにも。まず第一歩として4月2日(日)にゴミ拾いもかねて、第2回観察会が行われます。間近かで谷津田の変遷を見て来た私も、この観察会を通して真剣に考えたいと思います。

## 『田園の快樂』

長生郡長柄町 中野 雅蔵

私は5年前、家族と共に房総の中央部長生郡長柄町の谷田(ヤツダ)と呼ばれる、三方を山に囲まれた入り江のような地形のところに移り住みました。家のすぐ前には陰谷堰(カゲヤツゼキ)という名のため池があり、アマサギ、ゴイサギ、カモ、カイツブリなどの鳥、マムシ、ヤマカガシ、巨大な牛ガエル、コイ、フナ、ナマズ、トウキョウサンショウウオ、ホタルなど数え切れないぐらいの多種多様な生き物が生息し、彼等の貴重な水場となっています。まさに天然のヴィオトープです。50年以上も改修工事がなされなかったことも幸いして、自然景観が保たれ、神秘的な雰囲気さえ漂っています。

私達は別に農業を目指してこちらに来たわけではありませんでしたが、ごく自然の流れの中で休耕田を借り受け、無農薬有機栽培による米づくりを開始しました。除草剤、大型農業機械を使用しない手作業による栽培は手間がかかり生産効率は悪いのですが、プロの農家と違って目指しているものが換金作物としての米にあるのではなく、自給自足、穀物の栽培と共にある農的暮らしとでもいうべきものですから、なんら不都合も生じません。

自然循環型、環境保全優先の暮らしを求める者にとっては、谷田や棚田のような豊かな自然景観(雑木林、水鳥、昆虫、鳥、小動物の生息地)を持つ農地はうってつけの棲み家となります。田園の快樂を味わうにはこれ以上のスポットはないでしょう。インドネシアのバリ島があればこそだと思います。

房総には大小あわせると数千ともいわれる谷田がありますが、ただ荒廃してゆくのを為す術もなく眺めているのではなく、活性化させてゆけば良いのです。この類まれなる生活文化遺産でもある谷田を、私達のようなネイティブな生き方を求める種族に無償で貸与して、有効利用を図れば一つのモデルケースになるかもしれません。名づけて『谷田活性化計画』ECO GARDEN PROJECTを始めようと考えているところです。

また、無農薬有機栽培によるお米づくりのワークショップ『田んぼガーデニング』も主宰しています。興味をお持ちの方はご連絡ください。  
(千葉県長生郡長柄町徳増 806 中野雅藏)

## 大藪池谷津で「谷津田創り隊」がんばる ～谷津田創造プロジェクト～



大藪池谷津について...

千葉市緑区越智町。越智はなみずき台団地の調整池、大藪池北東にある“開発から取り残された”小さな谷津です。三方を斜面林で囲まれ上流に湧水があり、1/4が田んぼとして耕作されています。



谷津田創り隊について...

「地域の谷津田の休耕田を借りて田んぼやピオトープを作りたい」と以前から考えていたProject TOKE。しかし、田んぼを維持するマンパワー不足で、今一步踏み出せませんでした。「ちば・谷津田フォーラム」の設立準備会で、ちば MD エコネット事務局長、千葉まちづくりサポートセンター事務局長とそんな話をしているうちに、いつのまにか出来てしまいました。

【目的】休耕田や放棄田を生物の住みやすい耕作地として復活させ、子どもや障害者など多くの人が農業や自然を体験できる空間として谷津田を“創造”する。

【隊長】野栄町で無農薬有機農業に取組み「菜っ葉の会」を主催する熱田忠男さん。農業の経験のない私たちの相談相手としてお願いしました。

【隊員】イベント毎にどこからか集まってきます。

【運営】現在はイベント毎に参加費をいただいています。財源不足につき、会員を募集し、千円程度の会費をいただこうと検討中です。



ついに谷津田を手に入れた...

昨年11月に放棄田500坪を借りました。一面のアシ原、ズボッと膝までもぐってしまう湿地で、田んぼを作るのも大変という地主さんの話でし

た。熱田さんのアドバイスで、東南アジアの湿地で行われている《チナンパ》という畠作りや米作りを参考に、まずアシを刈り、土地の状況を把握し利用計画を考えることになりました。



「アシ小屋作り」を企画する...

小学校高学年を対象に、刈ったアシと大藪池周辺の竹と麻縄で小屋作りを企画しました。大人たちが「面白い！子どもたちも目を輝かせて参加するだろう」と自我自賛。しかし、肝心の子どもに受けが悪く？あえなく中止。今の子どもたちには、そこらにある板切れなどで何かを作るという経験が乏しく、楽しさがイメージできないのかもしれない。今後の課題です。

めげない大人たちの挑戦...

内心、自分でやりたかったお父さんたち。あきらめ



きれず、企画を横取りして、当日嬉々として集まってきました。どんな小屋を作ろうか。本来は子どもたちが“設計”ワークショップを前の週に行うはずでした。いくつか案が出ましたが、あまり欲張らずに作れるのをと、片屋根で南に2つ、東に1つ窓があるシンプルなデザインに落ち着きました。

(あたりまえのこと)に気が付いた...

当初は、ホームセンターで売っている材料を使う感覚で、長さを測り竹を柱や梁に切って、麻縄で縛ればよいと気楽に考えていました。実際に作り始めると、竹には節があります。節と節の間で切ると、中に雨が溜まる、麻縄が固定しづらいと節の上で切ることになり、当然長さが不ぞろいです。また、竹は上にいくにしたがって細くなります。梁にするとたわんでしまい、急遽柱の本数を増やしました。竹の



表面がつるつる滑って、鋸で少し切れ込

みを作るほうが麻縄で縛りやすい。などなど、あたりまえのことを学びながら、試行錯誤の結果、ともかく骨組み完成。問題は、アシをどのように使うかです。誰もやったことがない。実験的に5～6本を束ね、麻縄で編むように骨組みに固定してみました。すると、なかなか良い感じです。

はたして竣工式のビールを飲めるか？...

1日で作る予定でしたが、アシで壁や屋根を作るのは次回のお楽しみとなりました。小学校高学年の企画としては難しかったかもしれない。自らやってみてわかりました。でも、子どもたちにも是非経験させたい楽しさです。

(Project TOKE 高山斎一郎)

谷津田創り隊の活動

第1回 WS「こんな谷津田にしたいな」～アシ刈り・布絵 & 豚汁～ '99/12/27

第2回 WS アシ刈りと「熱田代表と話し合う会」'00/1/30

第3回 WS「アシ小屋を作ろう」'00/2/27

第4回 WS「アシ小屋を作ろう その2」'00/3/12(予定)

## 里山林と谷津田保全の試み

佐倉里山クラブ 代表 美濃和 信孝

地元佐倉で里山クラブという森林ボランティアグループを始めて約3年たちました。これまでは、佐倉市民の森で下刈り、間伐、枝打ちなどの森林作業を行ってきましたが、昨年秋より、市内岩富の雑木林と斜面林を所有者の方からお借りして、手入れを始めています。ここは数十年の間、ほとんど人の手が入っていない林が大規模に広がっていて、アズマネザサやマダケが生い茂った藪を切り開く作業は、まさに開墾といってもよいくらいの内容です。作業自体は大変ですが、一日の作業が終わったあとで明るい場所が増えていくのを見る時、快い疲労とともに他では得難い充実感を得ることができます。岩富での手入れを始めてからは、ますます作業にはまり込む熱心な人の輪が広がりつつあるのを実感しています。

この場所も昔は、落ち葉一枚落ちていないようなきれいな林が広がっていたようです。アカマツを主体とした林は、その落ち葉さえもかまどの燃料として欠かせないものだったからです。十数年前から進行した松枯れのあと、林内は3m以上のネザサが壁のように生い茂り、ネザサを刈ると、もともとあったコナラなどに混じって、ひょろひょろ伸びたゴンズイやサンショウのような陽樹と、大木に巻き付いたフジが姿を現してきます。市民の森の経験からいうと、手入れが継続されてきた林は、林床植物が豊かでいろいろな花が咲きますが、長期間手が入っていない場所は、なかなか本来の植生が回復してこないようです。手入れを始めたこの場所はどう変わっていくのでしょうか。注目して見ていきたいと思っています。

昔から岩富の谷津田では上質の米が作られ、佐倉藩主御用達だったと聞いています。しかしながら今は谷津田の多くが放棄され、見る影もなく荒れています。私たちが斜面林の手入れをしている小さな谷津も、1軒の農家の方が3枚の田んぼを耕しているに過ぎません。昔山の手入がよくなされていたころは、この小谷津に

も水が流れ、不自由なく田んぼづくりができたといいますが、現在は水も枯れ、発動機付きポンプで水を汲み上げての耕作が行われています。それでも4月の下旬に田に水が張られると、どこからともなくシュレーゲルアオガエルが現れ、大合唱を聞かせてくれます。また、田んぼ沿いのよく手入れされた裾斜面には四季折々の花々が咲き乱れます。しかしながらもし耕作をやめるようなことになれば、たった1年でこの谷津は藪に覆われ、我々が森の手入れに通うことすら困難になるでしょう。

森によって育まれた水が里に向かって流れくだる道は、人が森を育てに通う道でもあります。谷津田沿いの1本の道と水路を通じて、人と自然とが循環的につながっているのです。ですから、谷津田と里山林はどちらか一方を切り離してもだめで、一体化した保全が望まれます。我々も現在のところは林の手入れに手一杯で、水田のほうまで手がまわらないというのが実状ですが、将来的には何とか農家のお手伝いなることをしたいと思っています。

佐倉市岩富谷津田斜面の手入れ(2000年1月16日)

## 「岡発戸・都部の谷津を愛する会」の発足と活動

岡発戸・都部の谷津を愛する会 代表 宮下 和喜

岡発戸(おかぼっと)・都部の谷津と呼ばれるところは、手賀沼の東端の北に位置する我孫子ゴルフ場と中央学園高等学校に隣接し、ゴルフ場と高校を北から東南方向に添って取り囲むように存在する長さ1.2kmほどの谷地で、谷の開口部は300mほどである(図参照)。谷津の北面とゴルフ場・高校敷地の緑は、斜面林になっている。谷地の奥の部分(岡発戸)は、昔は水田であったが今では休耕田または耕作放棄の草地担ってしまった所が増えている。開口部(都部)はまだ水田である。

我孫子市は平成8年「手賀沼を誇れるまちづくり」という町づくりの計画策定を公表し、その中で「谷津ミュージアムプロジェクト」という考え方を提案した。谷津の自然環境を保全すると同時に市民が直接自然に接することが出来る「自然観察施設」を作るというアイデアである。岡発戸・都部の谷津に接している湖北台を中心とする地区の住民はこの考え方に賛同し、近い将来この考え方が当然具体化の方向に進むものと期待していた。ところが、平成11年の5月頃ある幼稚園がこの谷津内に進出するために用地を買収していたことが明らかになり、さらにその他にも幾つかの進出計画があるとの“うわさ”が流れてきた。びっくりした有志の人たち発戸が市に公聴会を求め、ミュージアムプロジェクトの計画や幼稚園の進出がどうなっているのか説明を聞いた。その結果、ミュージアム構想はまだ固まったものではなく、対象地も岡発戸・都部の谷津に最終決定している訳ではない。また、この谷津の場合には地権者より出されている区画整理事業計画が具体化されるか、されないかによって事情がまったく違っているので、ここでのミュージアム構想は凍結しているとのことであった。幼稚園の進出は、当事者より違法な

手続きが取られて承認されれば、行政側としては受けざるを得ない、とのことであった。このような事情から有志の人たちは、傍観しているところの谷津はなしくずしい消滅してしまう危険のあることを知り、大変不安な念にかられ、その後何回もの話し合いを重ねる中で岡発戸・都部の谷津はその立地条件や規模および現状の自然環境の状態から見て「谷津ミュージアム」(自然観察施設)を作るには市内で最も適した場所であることに加え、ここにある昔にごく近い原風景は今後の町づくりの中に上手に生かし、われわれ市民が最も身近に接することができる自然環境として大切に保存すべきだ、との結論に達した。そこで、集った有志の人たちは、個人がバラバラな主張をしていても駄目だからこの際「会」を結成してここに意見を集約し、この谷津の保存と有効利用を主張する運動を進めようということになった。「岡発戸・都部の谷津を愛する会」(略称：谷津を愛する会)の設立総会は、少々遅くなったが昨年11月に開かれ、会則や役員が決められた。これ以後、「会」は関連する自然保護団体や知識人、議員、行政、地権者などと各種の話し合いや運動への理解や支援のお願いを開始し始めた。

このようにして発足した「谷津を愛する会」は実際に活動をはじめてからまだ一年に満たないが、会員もようやく150人を超えるようになり、少しずつ活動の輪が広がり始めている。会員の観察活動によって谷津の2～3ヶ所でホタルがクリスマスツリーのように群がる場所のあることが見つかったり、最近各地でめっきり見られなくなったといわれているツマキチョウの住んでいることも分かってきた。この谷津に観察ステーションを設置している「我孫子野鳥を守る会」によると、ここで今までの観察で確認することが出来た野鳥の種数は45種にも達しているという。これらの事実からすると、斜面林は現在荒れている上に休耕田や雑草が増えてきているとはいえ、この谷津の動植物相は大変豊かで、全体としての自然環境もまだ昔の原風景を色濃く残していると見てよい。我孫子市にある日本唯一の「鳥の博物館」のごく近くにこんなに野鳥を多く見られる場所がまだ残っていたことは大変幸いなことでもある。

私たちの会は、今荒れたままになっている斜面林の手入れ、草で通りにくくなっている道路の草刈、ホタル繁殖地の整備などをボランティア活動によって実施し、ここを自然観察施設または谷津自然公園として保存していく活動をしていきたいと思っている。しかし、一口に斜面林の手入れとかホタル繁殖地の整備といっても実際にやってみると大変きつい労働量になるので、とうてい現状の会員だけの労力では短期間に実行するのは不可能である。そのため、こうした運動や仕事に興味を持たれる方がおりましたらぜひとも会員になってご協力くださることをお願いしたいし、会員にならないまでも力を貸しても良いという方や、ホタルの繁殖などに経験や知識をお持ちの方がおられましたら事務局の方へお申し出くださって、ぜひともご協力をお願いしたいと思います。

事務局：

〒270-1136我孫子市湖北台10-18-28

鈴木明子 Tel&Fax0471-88-1870

岡発戸の図

# 大草谷津との出会いとこれから

ちばコープ 金子 美幸

ちばコープでは「次世代にも緑豊かな環境を残したい」という組合員の願いに応えるため、身近な自然とふれあい、その大切さを実感できるさまざまな企画を提供しています。自然の中の気持ち良さ、楽しさを自ら体験して、自然のしくみが理解できてこそそれを守る最大の力になっていけると思うからです。

そんな中で昨年 12 月 9 日、「大草の谷津を歩いてみませんか」という呼びかけをし、中央博物館の中村俊彦先生の協力で散策&観察会を実施することができました。平日にもかかわらず大変な人気で当日はスタッフを含めて 50 名にもなってしまいました。中村先生の熱心なお話で、このような子供の頃から親しんだ身近な谷津田がとても豊かな自然で貴重であることをみんなで再認識しました。アンケートで「保全にむけて協力したい」と答えてくれた人もたくさんいました。

さて、今年はまだ一歩踏み出して、休耕田にセイタカアワダチソウが目立ってきた大草の谷津のよりよい姿へむけて、何かできないかと私たちは考えています。幸い中央博物館の長谷川先生が昨年からは休耕田を借りて復元を試みているとのこと。先生もお忙しいなかでのボランティアなので、なかなか手が回らないであることを知りました。「そこのお手伝いくらいなら私たちもできるぞ!」と、先日さっそくお手伝いの打合せに組合員スタッフ 8 名で長谷川先生を訪ねました。

先生とじっくり話し合った「大草谷津へ関わる心得」をご紹介します。

- ・大草谷津の自然はその地主さんと住民が主体。
- ・私たちはそこで楽しませてもらいながら(おせっかいにも)保全のお手伝いをさせてもらうという立場。
- ・時間をかけて地元と一緒に協力しながら、でも私たちの希望もちゃんと入れて、よりよい自然の姿を復元する。
- ・夢と希望と熱意をもって、できるところから一歩ずつ。

具体的には、3 月 10 日と 12 日に草刈りから活動します。この活動に賛同していただける方はぜひ一緒に。今後も季節毎に定期的に活動があります。

大草地図



# 市原市市津近辺の谷津－豊かな生命の揺り籠

市原市 植田 和雄

昨今は「里山」「谷津」という言葉をよく見聞きする。私は言う方の一人だが、その方面の専門知識や学識はない。市原市の最北部で千葉市に隣接している一帯は下総台地と上総台地がなんとなく落合っている所で、大規模開発が過激に行われている千葉県では奇跡的に広大で緑豊かな森林丘陵が残っている。ここを分水界として東京湾に注いでいる村田川とその支流村田川がこの地域を水と緑の美しい景観に仕立てている。

1998年、千葉市、市原市はこの地域（約1万ヘクタール）に「新環境創造都市」建設の計画を発表した。その着手として「市津緑の街」（約170ヘクタール）の事業が99年3月に認可された。

この地は南北約2km、最大幅約800メートルの細長い丘陵で、支流村田川に向かって数条のコナラの斜面林の谷津を持つ。市民の中からオオタカが生息しているのではという危惧の音がすぐ上がった。それ程、この地域は多種多様な動植物の生態系よりなっている。

市津支所前の県道を茂原に向かってすぐ右へ脇道に入り昔ながらの村落の中を通り抜けると、南北に連なる標高5、60メートルくらいのなだらかな起伏の丘陵が一挙に眼前に開ける。視界は谷津田と里山の風景。

畦道、川の土堤に早春の花アマナ、イヌフグリ等様々な四季の野草。水辺にサギ、キセキレイ、セグロセキレイ、飛ぶ宝石の異名を持つカワセミ等の野鳥。丘陵地にはイチリンソウ等の台地性の野草。丘陵裾の湿地には一群のハンの林、これを食樹とする森の妖精ミドリシジミ蝶、湿地特有のトンボのサラサヤンマ。山地性の野鳥ホホジロ、ヤマガラ等多種。

調べれば調べる程多種多様な生物生息地。豊かな生命の揺り籠である。

## 谷津の保全 - 行政と市民とのかわり

ちば環境情報センター 田中 正彦

佐倉市に畔田（あぜた）という第1級の谷津があります。そこに通称畔田沢というホトケドジョウの棲む土水路があります。畔田沢は手繰川に注ぎ、手繰川は印旛沼に流れ込んでいます。

この畔田沢が手繰川に注ぎ込んでいるところに50cmほどの段差があり、魚類を中心に生物の下流域と上流域の行き来が分断されています。多くの谷津で見られるこの段差を何とかしたいとかねてから考えていたところ、佐倉自然同好会の小野由美子さんのお骨折りにより、2000年1月7日畔田沢段差の事で佐倉市土木部土木課排水整備係の松崎良和係長らと懇談することができました。

その中で、松崎係長は畔田の自然環境が重要だということをよく理解していて（彼は佐倉自然同好会が市に提出していた報告書を読んでいたそうです）段差をなくす方向で考えたいと約束してくれました。

約束が守られるかどうか心配でしたが、3月28日に小野さんから「佐倉市土木部土木課排水整備係の小西氏から『前回の話し合い通り、少額の金額で、つまりU字溝2つを並べるくらいならできそうなので、協議に来て下さい』という返事があった」との連絡がありました。土木課が一番知りたいのは、勾配の角度、その魚道の水量・水深についてだそうで、『設置してからこんなのでは全く魚道の役割を果たさないとされるのが一番困る。かといって、予算を考えずにゆるい勾配の理想的なものはつくれないことは了解して下さい。』とも話していたそうです。

先日行われた佐倉市議会で新年度の予算が否決され、早急な着工は不可能となり今後どういう展開になるかまだわかりませんが、谷津の保全に行政と市民が協力していこうという一つのテストケースとてかかわっていきたいと思います。（本文はちば環境情報センターニュースレター31号に掲載した記事を加筆修正したものです）

## 谷津田調査票をお送りください

---

【記入例 1】市原市の南川忠男さんより送られたものです。

【記入例 2】千葉市若葉区の長谷川繁子さんより送られたものです。

# 事務局より

## 1. 顧問紹介

次の方々に「ちば・谷津田フォーラム」の顧問をお引き受けいただきました。(敬称略・50音順)

石川 清	社会貢献活動企業推進協議会代表
岩瀬 徹	千葉県生物学会副会長・千葉県立中央博物館友の会会長
沼田 眞	千葉大学名誉教授・日本自然保護協会会長
大沢 雅彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
楠岡 巖	四街道ユネスコ協会会長・四街道ライオンズクラブチャーターメンバー
ケビン・ショート	博物学・自然史ライター
椎名 益男	ライオンズクラブ国際協会(千葉県)環境保全委員長
高橋 在久	東京湾学会理事長
中島 拡子	千葉県生活協同組合連合会顧問
根本 正之	東京農業大学地域環境科学部教授

## 2. 活動報告

ちば・谷津田フォーラムの第1回目の観察会が、2000年2月20日(日)千葉市緑区大和田地区谷津田で実施されました。当日は雨天にもかかわらずはるばる埼玉県から来られた方を含め20名近くの参加者がありました。午前中は中央博物館の中村俊彦さんやちば環境情報センターの田中正彦さんの解説を受けながら谷津田を歩き、斜面林の観察や土水路で魚を捕ったりしました。まだ水は冷たかったですが、タモロコやメダカが観察できました。特にメダカは一すくいで30尾ほども採れ、ここがかけがえのないところだということを一同あらためて実感しました。

午後からは、近くの猿橋自治会館で土地区画整理組合設立準備委員会や計画づくりをしている東武計画の方々との懇談会がもたれ、谷津に関しては斜面林を含めて現況をできる限り生かしたまちづくりをしていきたい旨の説明を受けました。短時間の意見交換でしたが、今までのような対立型ではない対話型の開発・保全活動をめざして、お互いできる限り知恵を出し合っていくことで合意できたと認識しています。まだまだ先は長いですが、谷津環境を生かした町づくりが実現できれば様々な開発の一つの良いモデルケースになるはずです。

また地元の土気地区から参加した4名の方々を中心に、今後大和田地区に積極的に関わっていこうという意見が出され、活動を始めることになりました。

なお、千葉市大和田地区土地区画整理組合設立準備委員会(会長 岩瀬友一)様より会の活動のためにご寄付をいただきました。

## 3. ご寄付のお願い

ちば・谷津田フォーラムでは、一人でも多くの方々が谷津田に関心をもち、保全活動に参加できるよう会費無料で運営しております。活動を続けるのに必要な経費(印刷代、郵便代など)はこれまでみなさんからのご寄付とbayfmからの助成金で賄ってきました。今後とも活動をささえていただくために、郵便振替口座を開設しました。なお振替用紙を同封しましたのでよろしくごお願い致します。切手やテレホンカードなどのご寄付も大歓迎です。

ちば・谷津田フォーラム会誌第2号

発行日：2000年4月1日

発行：ちば・谷津田フォーラム 〒260-0013 千葉県千葉市中央区 1-6-9 ちば環境情報センター内

TEL&FAX 043-223-7807

代表 中村 俊彦

編集責任者：小西 由希子，田中 正彦

## イベント情報

事務局に寄せられた4月以降の活動です。  
各自ご連絡の上、どうぞご参加ください。

実施日・イベント名	集合場所・時間	主催連絡先	持ち物・その他
4月2日(日) 下大和田谷津観察会 (千葉市緑区)	10:00~14:00 集合 中野操作場 (JR 千葉駅 番バス停発 ちばフラワーバス 所要時間 40分 発車時刻 9:05 9:20 * 駐車場あり	ちば・谷津田フォーラム (ちば環境情報センター内) TEL&FAX: 043-223-7807	弁当、水筒、敷物、長靴、 ゴミ袋、軍手(途中ゴミ 拾いをします) * 雨天実施 * 参加費 300円
4月2日(日) 遺跡巡り (千葉市若葉区貝塚町)	10:00~12:30 京成バス 「都町」バス停わき(国道 51号線下り側、貝塚県営 住宅前) JR 千葉駅より京成バス「千 城台車庫行き」または「御 成台車庫行き」に乗車して 5つめ。約10分	千葉市の遺跡を歩く会 TEL:043-234-1221 杉田	【対象】中学生以上(日 本考古学協会会員によ る説明つき) (雨天中止)
4月9日(日) 大草谷津休耕田手入れ (千葉市若葉区)	10:00~15:00 9:30 ちばコープ桜木本部集 合	ちばコープ ヒューマンネット事業部 TEL:043-233-8209 金子	弁当、水筒、敷物、長靴、 軍手、あればシャベルや 鍬
4月11日(火) 大草谷津見学会 (千葉市若葉区)	9:20 JR 千葉駅 番 バス停集合	千葉みちくさ会 TEL:043-255-4104 斉藤	弁当、水筒、敷物
4月16日(日) 野草を食べよう (市原市能満谷津)	10:00~14:00 集合: JR 八幡宿駅西口 10:00, 昼食に谷津で採った 野草を食します。	ちば環境情報センター TEL&FAX: 043-223-7807	弁当、水筒、敷物 参加費: 500円(保険代 含む)車で来られる方は 事前にご連絡ください。
4月22日(土), 23日(日) 写真展「岡発戸谷津」	会場: 湖北台近隣セター 我孫子市湖北台8-2-1 TEL: 0471-87-1122 10:00~17:00	岡発戸・都部の谷津を愛 する会 TEL&FAX: 0471-88-1870(鈴木)	春祭り企画の一部とし て参加, 入場無料, 会場 へはJR 湖北駅から徒歩 3~4分
5月21日(日) 見学会 四街道市 「くりの里山トンボ池」	10:00 四街道市役所集合 会の顧問である楠岡巖氏の 谷津田を見学します。	ちば・谷津田フォーラム (ちば環境情報センター内) TEL&FAX 043-223-7807	弁当、水筒、敷物、長靴 車で来られる方は事前 にご連絡ください。